

ひとことぬし
一言堂

浅見 宣義



「かぼす」の縁

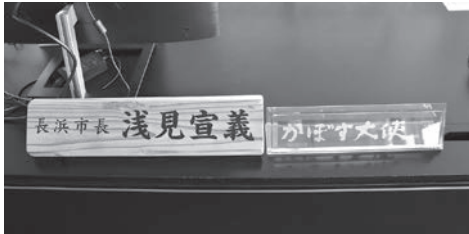
「かぼす大使」というものを「ご存じ」でしょうか。私の席には「かぼす大使」のネームプレートが飾っています。私は、裁判官をしていたころ、4年間大分地方裁判所に赴任したことがありました。その時に、当時の大分県知事から「かぼす大使」に任命していただきました。この大使は、私のように全国から大分に赴任してきたものや、大分に深いかわりのある人が任命され、大分県のPRにつながるように設けられたものです。今でいうところの「関係人口」のさきがけのような取組みです。私はいま「長浜大使」を自認していますが、もう一つ大使職を保持しているわけです。

大分県は、自治体ごとに名産品を作る「一村一品運動」の展開や、長浜と同じ昔からの街並みを生かした由布院のまちづくり運動など、独自の取組みで活性化策を講じてこられました。また、歴代知事による企業誘致の運

動が盛んであり、300を超える企業誘致を成功させ、一時期は福岡県を抜いて九州一の工業県となったこともありました。

そのような大分の「かぼす大使」会の名誉会長が、大手精密機器メーカー・キヤノンの御手洗会長です。元日本経団連会長でもある御手洗会長は大分県出身であり、キヤノンは大分県にも多くの工場を立地されています。何より、本市に立地する長浜キヤノンの親会社のトップです。このような方と同じ「大使」を務めさせていただけるとは、本当に貴重なご縁であると感じています。

このご縁を元に、御手洗会長とも長浜や東京で何度か面談の機会をいただき、組織のトップとしての矜持を学ばせていただきました。また、長浜の経済についてのお考えをお聞きすることもできました。今後もこのご縁を活かして、地域の活性化につなげていきたいと考えています。



▲かぼす大使の銘板

お元気ですか

市立長浜病院 放射線科(治療部門)
責任部長 小坂 恭弘

放射線治療を再開しました

放射線治療は、手術や薬物療法と並ぶがん治療の3本柱の一つです。その対象は幅広く、多くのがんで使用可能で、根治をめざす目的だけでなく、骨や脳などに転移した人の症状を緩和する目的でも使用されます。

従来当院で使用していたリニアック(放射線治療機器)は2008年に導入され、**定位放射線治療**や**強度変調放射線治療**といった高精度の放射線治療を行ってきました。からだの中でがんの周囲には正常な組織・臓器が存在しますので、なるべくがんに集中して照射することができれば、正常な組織・臓器への影響が少なくなりま

近年の科学の発展は目覚ましく、放射線治療の分野においても、この15年間でさらに精度の高い治療が行えるようになってきました。そこで地域の皆様に最新の放射線治療をお届けすべく、この7月から新しい「TrueBeam」(バリアン社製)というリニアックでの治療を開始しました。従来機に比べて様々な機能が追加されており、より早く、より正確に治療が行えるようになっていきます。当院ではこれらの機能を生かした新しい取組みを始めています。例えば今までは8週間近く要していた前立腺がんの照射期間を、1回の線量を安全に増やすことが可能となったため、4週間に減らすことができました。また他の部位のがんでも、従来は困難であった高線量の放射線を安全に照射できるようになります。これによりがんの制御率も改善していくものと期待しています。

当院は引き続き地域で完結するがん治療をめざして精進してまいりますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

市立長浜病院

☎ 68・2300(代表)

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。